

Bouquet

Vol.3
News Letter

2015.1



向井千秋さんと共に。
JAXAツアーにて

特集

知の可能性を広げよう！

突撃！学生インタビュー（第2回・一橋大学大学院社会学研究科）	02
Activity Report（イベント・セミナー・ツアー）	04
Study Commons（スタディ・コモンズ）教員・留学生・履修生の紹介	06
エッセイ——私の研究	07
花子の日記	07
Information	08



知の可能性を広げよう！

—— 突撃！学生インタビュー ——



この企画は、グローバル理工学副専攻の大学院学生が、自分たちの将来のモデル像として、産業界等で活躍している理系の女性リーダーにインタビューし、研究・仕事・家庭などについて語っていただくというものです。第1回目は企業の女性研究者にお話をうかがいました。第2回目となる今回は、取材した学生たちにとっては同じ研究テーマを持つ先輩研究者である、一橋大学大学院社会学研究科の大瀧友里奈准教授の研究室へ訪問しお話をうかがいました。

大瀧 友里奈さんプロフィール

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻修士課程修了後、日本たばこ産業株式会社に就職。その後再び、東京大学大学院学際情報学府に進学。学際情報学博士。2014年より現職。水と人の関わりを中心に環境に関連する研究を行う。

理系と社会科学の融合を目指して

— 今日ではよろしくお願ひします。先生の現在のお仕事について教えてください。

私の職場、一橋大学は皆さんご存知のように文系中心の大学ですが、理系科目に関心のある学生もいます。私は物質科学、環境科学の講義や少人数で実験や演習を行う教養ゼミナール等を受け持っています。そのほか、研究室のゼミ生への研究指導や自分の専門分野である水の研究も行っています。日常生活で使う水と人々の意識についての研究です。

— 環境や水の研究者になりたいと思ったきっかけは何だったのでしょうか？

一つには、小学校低学年の頃に、水俣病やイタイイタイ病など、いわゆる公害問題ですが、人間の活動が引き起こした環境汚染というものを知って、その解決や、環境保全に貢献するような仕事をしたいと思いました。それから環境についてのいろいろな本を読んだり、話を聞いたりしていったというのが、そもそものきっかけです。もう一つは、幼い頃から両親がトレッキングや山菜採りなど自然環境と触れる経験をたくさんさせてくれたこと、それも環境に興味を持つきっかけになったと思います。ところで学生のお二人はどういうきっかけで環境の研究をしているのですか？

— 学生（長瀬）私は工学部の化学系出身なのですが、元々は化学製品を作ることに興味がありました。その中で、製品を作るに当たり環境問題は常に考えなければならないものだと感じ、環境についてもう少し研究してみたいと思ったのがきっかけです。

学生（西田）私も小学生の時から環境汚染に対してすごく興味がありました。また、大学入学のときに生活に身近なことを学びたいと思ったこともあり、最終的に環境工学の研究室を選びました。

研究テーマとの出会い

— 学生時代の研究について教えてください。

私は2つの修士課程を修了しています。最初は都市工学で、下水処理に使われている微生物を用いて生分解性プラスチックを生成する研究をしていました。下水処理では、微生物の代謝を利用して排水をきれいにします。排水中からリンを除去するには、微生物が菌体内にリンを蓄積する機構を利用するのですが、その蓄積する物質が生分解性のプラスチックの成分で、その蓄積率をどのようにしたら向上できるか、という研究をしていました。その後企業に就職しましたが、もう少し環境を広くとらえた研

究をしたいと考え、数年後に再び大学院に進学し、歴史やフィールドワークなどこれまでやってこなかったアプローチに取組みました。

— 先生の書かれた江戸の水システムに関する論文を読みました。大変面白かったです。

ありがとうございます。歴史にも興味がありましたので、それを自分の専門である工学と融合できないかな、と考えてチャレンジしてみました。

— 先生は就職されたとき、もう一度大学に戻ることを考えていらしたのでしょうか？

いいえ、全く考えていませんでした。企業では研究職ではなく総合職でしたし、仕事の内容も国際事業企画でした。大学院に戻ったのは、いろいろなタイミングがうまく重なった結果です。

— それはどういうきっかけだったのですか？

そのとき大きな仕事が一段落したので、企業人としてステップアップするために、MBAをとるべく留学しようと考えていました。いろいろ調べていく中で、勉強するのであればMBAよりもっとやりたいことがあると漠然と感じていました。ちょうどその頃に、恩師の松尾友矩先生の最終講義を拝聴する機会があり、そこで先生が非常に大きな歴史的スパンで環境学についてお話してくださいました。そのときに、「ああ、これがやりたいことだ」と思いました。またちょうどそのタイミングで、新しく文理融合の大学院である学際情報学府ができると聞き、「そこで私がやりたいことができるかもしれない」と思いました。すべてがよいタイミングでつながりました。

新しい大学院での経験

— 新しい大学院の第1期生だったのですね。私たちがグローバル理工学副専攻の第1期生です。1期生としてのご苦労はどのようなものでしたか？

大変なことはとても多かったですが、楽しいことも同じくらいたくさんありました。研究する部屋がないとか、研究するために研究費を取らないといけない、という経験をしました。研究するには、きちんと申請して研究費を取ってこなければならないことを、痛感する機会となりました。



— 文系と理系の両方の先生にご指導いただく大学院の勉強というのは、どういう感じですか？

最初の授業で「ヘーゲルはこう言っている」という説明を聞き、カルチャーショックをうけました。これまで工学で学んできたことは、「こういうデータが出た」とか「再現性がある」という事実が重要で、それを誰が言ったのかということではなかったからです。1限目ではヘーゲル、2限目ではIT、3限目では教育と、非常に盛りだくさんな講義でした。一見、今の研究に全く関係ないことばかりですが、どれもとても面白かったし、今でも役に立っているなどと思います。今まで知らなかった分野が多く、苦労は多かったですが、それらが本当にいい経験になりました。新しいことにチャレンジする時に怖いとか、不安という気持ちが無くなって、まあ最初はこんなものだ、何とかなる、と思えるようになりました。

— その学際的な大学院で博士号を取得するのは大変だったと思いますが、いかがでしたでしょうか？

はい、本当に大変でした！博士論文を審査して下さる先生方の専門も、工学、国際関係論、社会学、科学技術社会論など多岐にわたっていて、いろいろな視点からのつっこみをいただきました。指導教員であった佐倉統先生に、「博士号は仮免で、そのあと実際の道を自分の力で頑張って走っていくのですよ」と言われた事がありますが、仮免をとるのもこんなに大変なのだ、としみじみ感じていました。

— どのように乗り越えていかれたのでしょうか？

落ち込んだり、泣いたり、諦めてみたり、でも頑張るしかないと思ったり。でも、自分だけが特別なわけではなく、同期もみな大変そうでした。大変なことを乗り越えると人間は成長できるので、そのためにあるのかもしれないですね。

日々、新たな知を吸収

— その後、博士号を取得してからは順調でしたか？

私は単位取得退学をして、その後、東京大学で特任助教をしながら博士号を取得しました。東京大学では、文理を問わずすべての学生対象の講義の企画や運営など、大学全体の教育に関わるポストについていました。東京大学のさまざまな分野の先生方と関わる機会があり、とても勉強になりました。この4月から一橋大学に参りましたが、これまでとはまた違った分野の先生方や学生との出会いがあり、新鮮な毎日です。

— 自分の専門とは違う分野の人と関わるときに、気をつけていることはありますか？

素直に受け入れることでしょうか。先入観を持たず、自分とは関係ない分野だとか、自分とは常識が違うと思わないことです。どんな分野からも学ぶことがあり、自分に役立つことが引き出せると思っています。理系の



分野の方が「文系の研究者は何をやっているのかわからない」（逆もしかり）と言うのを聞いたりしますが、そうならないように気を付けています。

— 現在の仕事と生活の

学生から一言

長瀬 智香「博士課程という貴重な期間に、自分の専門に止まらず多様な価値観に触れたいと思いました」
西田かおり「異分野に触れ、無駄だと拒まずにたくさんの経験を積み、将来のために有意義な博士課程5年間を過ごしたいと思いました」

— 両立はいかがでしょうか？

何をもって両立というのがかわからないですが、プライベートも充実しているかということでしたら、充実しています。東日本大震災のときに被災した犬を引取りましたが、当時は日々の仕事と生活でいっぱいだったので、犬なんて飼えるだろうか、と思っていました。でもなんとかなるもので、今や一番の癒しです。



愛犬と北海道にて

— ご趣味は何ですか？

旅行が好きでよく行きます。犬を飼う前は海外旅行が多かったですが、最近は犬連れで国内旅行が多くなりました。夫も水に関する研究をしているので、いろいろな所のトイレを見に行ったり、水に関する遺跡などによく行きます。最近では、犬も連れて、国東半島の世界農業遺産「ため池・灌漑システム」というのを見に行きました。海外の研究調査も行って、タイのチェンマイやベトナムのハノイでフィールド調査を行いました。普通のご家庭を何十軒も訪問して、水をどう使っているのか、水をどのくらいの量使っているのか、を調べましたが、プライベートの旅行ではなかなか現地のご家庭訪問はできないので、楽しい経験でした。

たくさんの無駄を試してみる

— 研究と趣味の融合というのが、とても参考になります。それでは、これから社会に出て行く学生の私たちにアドバイスををお願いします。

たくさん無駄をすること、そしてたくさん価値観に触れることです。学生さんから「何をしたら一番いいですか？」と聞かれることがよくありますが、近道をするのが必ずしもよいことではないと思います。その時点で見たら効率的なことも確かに大事ですが、長い目で見るとたくさんの無駄が、実はとても役に立つと思います。それから、たくさん価値観に触れることです。異分野のこと、異文化の世界、そして性別や年齢なども、自分とは違う人たちの考え方を許容することも必要です。とにかくいろいろな経験することをおすすめします。

— 私の周りで卒業して社会に出ている友人たちを見ると、まだ学生でいる自分に焦ったりもしますが・・・

焦らなくてもいいですよ！5年たてば自分も必死に働くことになるのだから大丈夫。今しかできないことを、たくさん経験してください！

— 本日は貴重なお話をありがとうございました。最後に女性先輩研究者として、一言アドバイスををお願いします。

一昔前は、確かに女性だから頑張らなければいけない、というように肩肘張る感じだったかもしれないですが、今は女性が働いているのは普通のこと。女性だからとか男性に負けずというよりもむしろ、一人の人間として誠実に取り組みれば大丈夫です。あと、お二人とも早く一緒に調査へ行きましょう！ベトナムで待っていますよ（笑）。

一緒に語ろう！リケジョの未来 J-Win W-STEM Networking Conference 2014

11月15日(土) 10:00 ~ 17:30 本学 参加者：約 500名

当日は、会場である本学微生物堂に500名近くの方々にご来場いただき、大変盛況でした。午前の基調講演の部では、主催者挨拶に続き、共催者挨拶として羽入佐和子学長が壇上に立ち、社会の女性活躍のために必要とされる教育機関の役割について述べました。



リーディングプログラムでは、協賛者によるポスターセッションにも参加し、多くの企業の方々にリーディングプログラムの取組みを紹介しました。

履修生によるワークショップ



午後のワークショップでは、私たちが普段行っているPBTSを模擬的に行いました。各チームからトピックを設け、学生と来場者の方を交えてチーム毎に議論を行いました。一時間と短い時間でしたが、会場では大変熱い議論が飛び交いました。来場者の方にリーディングプログラムについてより興味を持っていただくきっかけになっただけでなく、私たち学生も様々な意見をいただき、今後にもつながる非常に有意義な時間を過ごすことができました。(履修生 N)

PBTS 研究発表会

9月5日(金)・19日(金)

PBTS I プロジェクトのテーマ発表会を行いました。学生たちがひと夏かけて準備したプロジェクト企画を、4チームがそれぞれ英語で発表しました。

履修生より一言

私たち「脳科学チーム」は、神経細胞の複雑なネットワークを再現する脳の数理モデルをつくることについて発表しました。モデル化することは脳機能の解明、さらには革新的な情報処理技術の創出につながると考えました。私は今回が初めての英語による発表や質疑応答だったため、とても緊張しましたが良い経験になりました。次回は、自分が伝えたいことをより滑らかに話したいです。



キャリアセミナー <お茶大方式>リケジョの明るい未来

10月29日(水) 15:00 ~ 18:00 本学 参加者：約 30名

他大学やお茶大のOGの方々にもご参加いただき、とても有意義なセミナーとなりました。当日、講師には、キリン株式会社の女性管理職の方をお招きし、ご自身の経験から「キリンの商品開発事例に学ぶマーケティング」「リケジョ的キャリアデザイン」についてお話をうかがいました。リケジョのワークライフバランスの参考になり、またマーケティングを実際に体験する企画など、実践的かつ充実した内容で、多くの参加者から好評をいただきました。



JAXA (筑波宇宙センター) ツアー

11月10日(月) 筑波宇宙センター 参加者：約 35名

筑波宇宙センターツアーでは、きぼう運用管制室や宇宙飛行士養成棟などの施設見学が行われました。JAXAの向井千秋特任参与からは、ご自身が実際に実験を行った宇宙メダカの話をお話いただきました。さらに、有人宇宙船の水再生処理技術、衛星を用いた研究についてセンターの方々から教えていただきました。参加者からは専門性を生かしたキャリアや研究活動に対してのたくさんの質問がありがとうございました。貴重なアドバイスをいただくことができました。



<ミニ・ワークショップ> 研究・講義と社会貢献の架け橋

11月19日(水) 13:30~17:30 本学 参加者：約 45名

本ミニ・ワークショップは、商品の企画から開発に関わるプロセスの一部を疑似体験することで、理工系分野の研究開発と社会的ニーズ・営利がどのようにリンクしているのかを知ることを目的に企画されました。Health & Beauty、電子機器、インテリアデザインの3つのテーマそれぞれについて、学年・専攻の異なる参加者がグループを作り、活発な意見交換を行いました。企業で実際に商品開発をご担当された方々にファシリテートしていただきました。



スタディ・コモンズ (指導教員) より一言

19日に発表した3チームは、直前までディスカッションや英語のスライド作りに奮闘していましたが、その甲斐あって、はつらつとした発表になりました。「オリンピックチーム」は東京湾の浄化、「環境チーム」は砂漠化対策、そして「教育チーム」は理科教育強化と、それぞれ大きなテーマをかかげてユニークな課題解決のアプローチを提示し、発表後の意見交換は大変活発なものになりました。今後どのように発展していくのか、より一層期待がふくらみます。



Study Commons (スタディ・コモンズ)

教員紹介 | 留学の思い出を教えてください



佐藤 敦子 先生

さとう あつこ | 鹿児島県出身
特任講師
環境発生進化学

科学に興味を持ち始めたきっかけは？
幼い頃から植物、虫などの生き物、貝殻などが大好きでした！

伝統と学問の街 オックスフォード

私の第2の故郷と言えるのが、博士号を取得したオックスフォード大学があるOxford (イギリス)です。ここは750年続く大学を中心とした伝統的な街並みを保ちながら、近代的な工業都市という一面も持ちます。オックスフォード大学は、40ほどのカレッジと、あらゆる分野の研究の母体となっている department の集合体です。その広さに、大学の敷地に入っている事に気がつかず「オックスフォード大学は一体どこにあるのですか？」と聞く観光客が絶えません。毎年5月に『タウン・アンド・ガウン』と呼ばれる一風変わったお祭りがあります。その昔、住民(タウン)側と大学(ガウン)側が対立した歴史から、そのように呼ばれています。現在は、仮装をして(学生はガウンを着て)街中をランニングする楽しいイベントになっています。



留学生紹介



ライフサイエンス専攻 生命科学コース 李 冬陽

中国 河北省唐山市出身

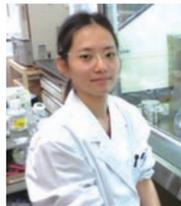
【故郷について】私の出身地(中国河北省唐山市)は、1976年に大きな地震の被害があったことでよく知られています。鉱物資源が豊かで、中国の重要な重工業都市の一つです。【研究について】私の研究室では、細胞表面の糖鎖についての研究を行っています。自分の研究テーマは、まだ決まっていますが、糖鎖の面白さを感じています。このグローバル理工学副専攻では「アンチエイジング」をテーマにしたチームに所属しています。三人のメンバーと一緒に老化を予防する、食事制限メニューを作りたいと思います。【日本に来ようと思ったきっかけ】私の出身大学では、日本へ留学した先生がたくさんいらっしゃいます。また日本人の先生もいらっしゃるので、その影響で、日本への留学を希望する学生が多いです。【日本に来て、面白いと思ったこと】最近日本へ来たばかりで、何もかもが新鮮です。特に面白いのは、日本の薬局には薬だけでなく、いろいろな商品があり便利だと思います。【これからの希望や抱負】日本で、研究と生活の両方が順調に進むことを希望します。今後は、自分の研究が人々の健康の役に立てればと思います。



大学卒業式にて。左端が本人

履修生紹介

理学専攻 化学・生物化学コース 水戸 晶子



専門は生物化学で、腸管粘膜の防御機能を、粘膜に分泌されるタンパク質の生理活性に着目して調べています。PBTSでは、情報科学コースの2人と教育チームを結成し、論理的思考力育成のための新たな教育システム・教材の開発に取り組んでいます。私は特に、理科実験に着目しています。現在は、中学校の授業を見学したり、ICT教育のフォーラムに参加したりと予備調査の段階ですが、将来の日本の教育に貢献できる研究をしていきたいです。

理学専攻 情報科学コース 矢野 緑里



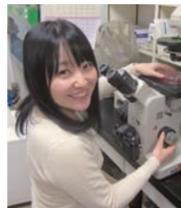
主専攻は計算生物学で、実験で得られたタンパク質の立体構造情報をコンピュータで解析しています。PBTSでは、心筋細胞の同期現象について研究するために勉強会に参加したり、研究機関を訪問したりしています。専攻が異なる学生でチームを組んで研究をしているので、考え方の違いから意見を主張することの大切さを学び、プロジェクトチームとして研究していることを意識します。インターンシップをはじめ、これからのチャンスも無駄にしないように頑張りたいです。

ライフサイエンス専攻 食品栄養科学コース カバリエロ 優子



主専攻では、パラグアイ共和国の食生活と栄養摂取状況について研究しています。日本は今後、超高齢化社会を迎えます。制限食は抗老化、寿命延長に有効であることから、PBTSでは生物、生化学専攻の仲間と協力して、健康寿命の延長と生活習慣病の予防に効果的な食事メニューを開発していきたいと考えています。主専攻との両立には工夫が必要ですが、素晴らしい先生方と切磋琢磨しあえる仲間と囲まれて、楽しく刺激的な毎日を送っています。

ライフサイエンス専攻 生命科学コース 橋本 恵



PBTSでは、数学・物理・情報科学を専攻する学生と心筋細胞のシンクロナイズーションについて研究しています。様々な分野が共に活かせるテーマを見つけるのに苦労しましたが、自分たちの想いをぶつけ合い、ようやくテーマを見つけました。これから、私が培養した心筋細胞を使い、数理的な解析をします。これは私にとって未知の世界です。大変なこともたくさんあると思いますが、チームの仲間や先生方に助けをもらいながら、大きく成長したいです。

Essay

プログラム担当者によるリレーエッセイ

私の研究

小林 功佳 (お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授・理学専攻長)



私の研究分野は物性物理学の分野で、主に数値計算により理論的な研究をしています。これまで、様々な研究を積み重ねてきました。私の研究を一部紹介します。

私の研究対象は固体の表面で、特にその電子の性質を研究しています。そのきっかけは、大学3年生の終りに所属する研究室を決める際、「表面」という言葉に興味を持ったことでした。大学4年生の時は、グラファイトのNMR化学シフトの計算をしました。この研究は修士まで続け、グラファイトのNMRシフトの実験結果を説明する理論を新たに考えました。

博士後期課程に入ると、走査トンネル顕微鏡 (STM) の像を計算する研究を始めました。STMは量子力学のトンネル効果を利用して、表面の電子の状態を原子スケールで調べることのできる顕微鏡です。当時、発明されて間もない頃で、STMに関する研究が盛んになり始めた時期でした。STMの像を計算する数値計算プログラムを新たに作成して、それを様々な固体表面に適用して、実験で得られる像の解釈に役立てる研究をしました。

また、スーパーレンズに関する研究に興味を持ちました。スーパーレンズは、光の屈折を起こさせる媒質を利用したレンズです。

特に、エヴァネッセント波という普通の波でない波を増幅させる効果があり、従来のレンズの解像度の限界を超える性能を持つと理論的に示されていました。私が興味を持ったのは、この原理を電子系に応用することでした。電子系へ応用するための原理を示し、エヴァネッセント波を増幅する具体的な系を考えました。

そして最近、トポロジカル絶縁体に関する研究を主にしています。トポロジカル絶縁体とは2005年に初めて理論的に示された絶縁体の新たな分類方法です。結晶は電気を流す金属と、流さない絶縁体に分類されていますが、その絶縁体を新たに2種類に分けることができるというものです。トポロジカル絶縁体に関する研究は現在世界中で非常に盛んに行われていて、思ってもいなかった新たな理論の提案や実験の報告が次々と出ていて、非常に刺激的な研究分野です。

リーディングの履修生の皆さんは、主専攻のそれぞれの専門分野において優れた研究を行うとともに、リーディングの副専攻の科目を履修し、より広い視野を持つ人材になることが求められています。なかなかハードなカリキュラムですが、努力して学位を取得し、将来、グローバルに活躍されることを期待しています。



お茶の水女子大学
助教兼着任の頃

履修生のまいにち

花子の日記

第3回



11月0日 晴れ

今日は、プログラムの仲間や学内の学生たちと一緒に JAXA (筑波宇宙センター) の見学ツアーに行ってきた。女性研究者としてもあこがれの宇宙飛行士・向井千秋さんから直接お話を伺ったり、きぼうの管制室や宇宙飛行士養成棟の見学など盛り沢山の内容で、とても貴重な体験ができた。

また、研究者の方々から水再生技術、衛星を用いた雲や雨観測、宇宙医学などの専門性の高いお話もお聞きする機会に恵まれた。

どれもとても興味深く、今まで自分にとって遠い存在だった宇宙が少し身近に感じた。近い未来、宇宙へ旅行する時代が本当にすぐに来るかもしれないと感じた一日だった。(T)



11月×日 雨のち晴れ

今日は集中講義 Essential Physics の最終回。3チームに分かれ、物理に関する論文についてプレゼンを行った。使用言語はもちろん英語だ。

私たちのグループのテーマはニュートリノ。私は素粒子に関する基礎知識をほとんど持っていなかったが、異分野の知識を新しく習得することが Essential シリーズの醍醐味と考え、少し興味があったこのテーマを選んだ。

ミュオン、タウ、パイオン... 論文中にはなじみのない言葉や記号が次々と登場し苦労したが、4人で協力してなんとか発表と質疑応答を終えることが出来た。グループで授業外の時間も集まって準備したり、苦労を共有したりとちょっとした連帯感を感じられたのは楽しかった。他の2チームも上手く役割分担して発表に臨んでいた。

そういえば、素粒子物理学を理解する大変さで頭がいっぱいで、英語で発表するというこの大変さはほとんど忘れていた。英語の発表にも少しは慣れてきたのかな。(K)

Information

■ イベント情報 ※詳細はホームページをご覧ください。

平成 27 年度 (2015 年) 4 月期 「グローバル理工学副専攻」 学生募集説明会

日 時：2015 年 1 月 21 日 (水) 12:20 ~ 13:10

場 所：お茶の水女子大学 共通講義棟 2 号館 201 室

対象者：平成 27 年 4 月に本学大学院博士前期課程 (ライフサイエンスまたは理学専攻) 入学予定の学生、またはリーディングプログラムに関心のある学生

「ウエルカムウィーク」個別案内・相談会

期 間：2015 年 1 月 15 日 (木) ~ 23 日 (金)

9:00 ~ 16:00 (土日は休み) *期間中ご自由にいらしてください。

場 所：お茶の水女子大学リーディング大学院推進センター
プレハブ棟 2 階 (学生会館隣)

対象者：平成 27 年 4 月に本学大学院博士前期課程 (ライフサイエンスまたは理学専攻) 入学予定の学生で本プログラムに参加希望、または興味のある方。

※ 1 月 21 日の学生募集説明会に参加できない方はぜひご参加ください。

■ 履修生募集情報

平成 27 年度 (2015 年) 4 月期 「グローバル理工学副専攻」 履修生を募集します。

【選抜試験】

2015 年 2 月 19 日 (木)・20 日 (金)・23 日 (月) のうちいずれか 1 日

※詳細は募集要項を参照してください

募集要項の入手方法：WEB サイト <http://www-w.cf.ocha.ac.jp/leading/>

およびリーディング大学院推進センター事務室 (プレハブ棟 2 階 学生会館隣)

◇申請期間：2015 年 2 月 2 日 (月) ~ 9 日 (月) 必着

◇合格発表：2015 年 2 月 27 日 (金)

■ 活動報告

2014 年 10 月 29 日 (水) キャリアセミナー 「<お茶大方式>リケジョの明るい未来」

2014 年 11 月 10 日 (月) JAXA (筑波宇宙センター) ツアー 「向井千秋さんから話を聞く」

2014 年 11 月 15 日 (土) J-Win W-STEM Networking Conference 2014

2014 年 11 月 19 日 (水) ミニ・ワークショップ 「研究・講義と社会貢献の架け橋」

■ 活動予定

2015 年 1 月 21 日 (水) 学生募集説明会

2015 年 1 月 15 日 (木) ~ 23 日 (金) 「ウエルカムウィーク」個別案内・相談会

2015 年 2 月 19 日 (木)・20 日 (金)・23 日 (月) 選抜試験

2015 年 3 月中 新しい履修生向けのガイダンス、プレセミナーを開催予定



リーディンググッズ ができました!

(左上) A4 ファイル
(右下) 不織布バッグ

編集後記

本プログラムの履修生たちは、いよいよ各チームに分かれ、自分たちの研究テーマに沿って PBTS 研究を開始いたしました。今後、企業・研究所などへの研修経験を積み、切磋琢磨しながら成長していきつてもらいたいです。4 月からさらに新しい履修生も増えるので、さらなる飛躍が楽しみです。



ロゴマークについて

円錐状に広がる花束により、入学した学生ひとりひとりの成長を表現しています。

真ん中のピンクの花が主専攻をあらわします。

従来の大学院教育は、この主専攻を大きく育てるものでした。

本プログラムでは基盤力を担う物理・数学・情報科学の花を、主専攻の周辺を支えるように配置。

その周りを固める小さな花が、俯瞰力やコミュニケーション力など、グローバルリーダーに必要な力を表現しています。

この花束を作り上げることが、本プログラム教育システムです。

国立大学法人

お茶の水女子大学

博士課程教育リーディングプログラム

「みがかずば」の精神に基づき

イノベーションを創出し続ける

理工系グローバルリーダーの育成

Bouquet Vol.3

発行日 2015 年 1 月 15 日

編 集 Newsletter 編集委員会

発 行 お茶の水女子大学

リーディング大学院推進センター

〒112-8610

東京都文京区大塚 2-1-1

E-mail: leading-ocha@cc.ocha.ac.jp

TEL: 03-5978-5775

<http://www.cf.ocha.ac.jp/leading/>